

化学品の名称: PROWAX 390
改訂日: 15 Feb 2022
ページ 1 / 12

安全データシート

セクション 1 化学品及び会社情報

化学品

化学品の名称: PROWAX 390
製品の説明: パラフィン系炭化水素
製品コード: 401010109510, 765701-87
推奨用途: ワックス

会社情報

供給者の会社名称, 住所: ExxonMobil Asia Pacific Pte. Ltd. (Company No.: 196800312N)
1 HarbourFront Place
#06-00 HarbourFront Tower One 096833 Singapore

24時間対応緊急番号 (1) 609-737-4411 / +1-703-527-3887
供給者の電話番号 (65) 6885-8000
FAX (65) 6885 8938

セクション 2 危険有害性の要約

この物質は法的指針によれば危険有害性は無い(SDSセクション15を参照)

GHS分類に関係しない又はGHSで扱われない他の危険有害性:

物理化学的危険性

熱傷の危険 - 高温の物質に接触すると、熱傷することがある。

健康有害性

高圧で皮膚組織の内部へ注入された場合、重度の障害を起こす恐れがある。 加熱した場合、生じた蒸気/煙霧は呼吸器管に刺激を与える恐れがある。

環境有害性

重大な危険性はない

備考: この物質を専門家の助言なしで、セクション1の用途以外に使用すべきではない。健康に及ぼす影響を調べた結果、個人差はあると思われるが、化学的曝露により潜在的な健康リスクを与える可能性がある。

化学品の名称: PROWAX 390

改訂日: 15 Feb 2022

ページ 2 / 12

セクション 3 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

この物質は、混合物として定義されている。

開示が必要な有害単一物質又は複合物質は無い。

セクション 4 応急処置

吸入した場合

暴露を止めること。救助員は、自身あるいは他の人々が暴露するのを避けること。適切な呼吸用保護具を着用すること。もし呼吸障害、めまい、吐き気が起きたり、意識不明の状態に陥った場合は、直ちに医師の治療を受けること。呼吸が停止した場合は、機器等を用いて酸素吸入を試みるか、口対口の人工呼吸を行う。

皮膚に付着した場合

石鹼と水で接触した部分を洗浄する。高温物質に触れて火傷した場合、皮膚に付着している溶融物質をできるだけ迅速に水で冷やし、医師に見せ、付着物質を取り除き火傷の手当てをする。製品が皮下または、体内のいかなる場所に注入された場合、傷の外観またはその大きさに関係なく、被害者は直ちに緊急処置を行う為に医師の診断を受ける必要がある。高圧注入による初期症状が、小さいか皆無であっても、事故が起きて数時間以内に早期処置を行うと、傷が大きく広がるのを明らかに軽減できる。

眼に入った場合

少なくとも15分間水で完全に洗い流す。医療機関で手当てを受ける。

飲み込んだ場合

応急処置は通常必要ない。もし違和感がある場合は、医師の手当てを受ける。

医師に対する特別な注意事項

なし

セクション 5 火災時の措置

消火剤

適切な消火剤: 消火には噴霧水、泡、ドライケミカル、炭酸ガスを使う。

使ってはならない消火剤: 直接の水噴射

消火

消火方法: その現場から避難させる。消火剤やその希釈剤が、水路、下水、あるいは上水道へ流入することを防ぐ。消防士は、標準の防護装備を使用し、建物内部やタンク内等では内蔵型呼吸機（SCBA）を用いる。火にさらされた表面を冷却したり、人を守るために噴霧水を使用する。

有害な燃焼生成物: アルデヒド類、不完全燃焼時の生成物、炭素酸化物、煙、煙霧、酸化硫黄、ワックスのフェーム

化学品の名称: PROWAX 390

改訂日: 15 Feb 2022

ページ 3 / 12

燃焼特性

引火点 [試験法]: $>232^{\circ}\text{C}$ (450°F) [ASTM D-92]

燃焼範囲 (およその空気中の容量%): 下限: データなし 上限: データなし

自然発火点: データなし

セクション 6

漏出時の措置

通報手順

流出または放出事故が起きた場合、すべての適用法令に従って関係機関に通報する。

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

流出物に触らない。消火に関する情報はセクション5を参照。重大な有害性については危険有害性の要約を参照。応急処置についてはセクション4を参照。最低限必要な保護具についてはセクション8を参照。特殊な状況下や緊急時対応の専門家の判断により、追加の保護策が必要になることもある。

緊急事態応答者に対する 呼吸保護: 流出量と潜在的暴露レベルに応じて、複合ダスト/有機蒸気用のフィルターの付いた半顔面か全顔面の呼吸保護具、または、自己呼吸装置 (SCBA) を着用すること。暴露の程度が完全に予測できない場合、酸素欠乏の不足環境になることが予測される場合には、SCBAを着用すること。耐薬品性の作業手袋、また必要に応じて、耐熱性あるいは、熱遮断性の作業用手袋を着用すること。注: ポリ酢酸ビニル (PVA) 製の手袋は耐水性が無く、緊急時の使用において適当でない。もし、眼に飛散したり、入ったりする可能性がある場合、耐薬品性の保護ゴーグルを着用すること。少量流出: 通常の帯電防止作業服は十分。大量流出: 耐薬品性、帯電防止材料のフルボディスーツ、また必要な場合、耐熱性および熱絶縁の作業服を勧める

封じ込み及び浄化の方法及び機材

陸上での漏出: 流出物質を凝固させ、シャベルでかき取り、リサイクルまたは廃棄するために適切な容器に入れる。

海上での漏出: 危険を冒さずにできる場合は、漏れを停止させる。直ちにオイルフェンスにより、流出物を封じ込めること。他の輸送業者にも警告を行うこと。表面からすくい取る。

海上での漏出および陸上での漏出についての記載内容は、この物質の最も起こりそうな漏出シナリオに基づいている。しかし、地理的条件、風向、気温、海上での漏出の場合は波、流れの方向、速度によってとるべき行動がおおきな影響を受けるかもしれない。こういった場合、その地方の専門家に相談するべきである。注: その地方の規制により、とるべき行動が指示あるいは制限されていることがある。

環境に対する注意事項

大量漏出: 後に回収し処分するために、漏出場所から離れたところに堤防を設ける。水路、下水道、地下または閉塞した場所へ流入することを防ぐ。

セクション 7

取扱い及び保管上の注意

化学品の名称: PROWAX 390

改訂日: 15 Feb 2022

ページ 4 / 12

取扱い (技術的対策; 安全取扱注意事項; 接触回避)

加熱した場合、生じた蒸気/煙霧は呼吸器管に刺激を与える恐れがある。 滑りによる事故防止のため、少量のこぼれ、洩れを避けること。 液体状態で、この製品は電気スパーク (着火源) を起こす静電気を蓄積することがある。この製品をバルクで取り扱う場合、電気スパークが、存在する液体あるいは、残った液体から生じた可燃性蒸気に着火することもある (例えば、スイッチを作動する作業中など)。適切なアースや接地処置をすること。しかしながら、アースと設置が、静電気蓄積からの危険回避をできないこともある。適切に適用できるガイダンスを参照すること。この参考として次の引用がある。米国石油協会2003 (Protection Against Ignitions Arising out of Static, Lightning and Stray Currents) あるいは、National Fire Protection Agency 77 (Recommended Practice on Static Electricity) あるいは、CENELEC CLC/TR 50404 (Electrostatics – Code of practice for the avoidance of hazards due to static electricity)。

静電気蓄積: 液体の状態でこの製品は、静電気を蓄積する。

保管 (安全な保管条件; 安全な容器包装材料)

貯蔵用容器など、容器の選定により静電気の蓄積や放電が起こることがある。 密栓していない、あるいは製品表示のない容器には貯蔵しないこと。

貯蔵温度: < 95°C (203° F)

セクション 8

ばく露防止及び保護措置

許容濃度

許容濃度/基準値 (注記: 複数の値がある場合、加算的ではない)

物質名	形態	許容値/規格			注意事項	出典
ワックスのフューム	煙霧	TWA	2 mg/m3			ACGIH

本製品取扱時、生成する物質の許容濃度/基準値: 粉塵状態に対して、ACGIHは、別段の要求のない限り、不溶性粒子として10 mg/m3(吸入により曝露され得る成分) と3 mg/m3 (呼吸により曝露され得る成分)の曝露許容濃度を採用している。

生物学的限界値

生物学的限界値は設定されていない。

注: 許容濃度/基準値は目安として示されている。適用される規制に従う。

設備的対策

必要な保護レベルと管理方法は、潜在する曝露条件によって変わる。以下の対策を考慮する;
許容濃度を超えないために、適切な換気を行う。

化学品の名称: PROWAX 390

改訂日: 15 Feb 2022

ページ 5 / 12

保護具

保護具を選択する際は、実用性、取扱い方法、濃度および曝露され得る可能性を考慮する。本物質を使用する際の保護具の選択についての情報は、以下に示すように、想定し得る通常の使用方法に基づいている。

呼吸用保護具: 設備的対応によっても空気中の濃度が、作業員の健康を保護するのに適切なレベルに保たれていない場合、国家検定合格の呼吸保護具を使用することが適当と思われる。該当する場合は、呼吸保護具の選定、使用および保守は法令に従わなければならない。本物質用に考えられる呼吸保護具のタイプは以下の通りである:

通常の使用状況で適切に換気してあれば、特別に必要なものはない。微粒子状物質

空気中の濃度が高い場合、承認された空気供給式呼吸器を加圧モードで使用する。酸素レベルが適当ではない、ガス/蒸気の警告特性が貧弱、空気浄化フィルターの容量/定格オーバーの場合は、緊急ボンベ付き空気供給式呼吸器の使用が適切であると思われる。

手の保護具: ここで提供している具体的な保護手袋に関する情報は、公表された文献及び、保護手袋の製造業者のデータに基づいている。保護手袋の適合性及び、浸透時間は、具体的な使用条件により相違する。保護手袋の選定における明確なアドバイス及び、使用条件での浸透時間については、保護手袋の製造業者に問い合わせること。また、使用前に保護手袋を検査して、すり切れたり、損傷ある手袋は、交換すること。本製品を使用する際に、推奨できる保護手袋の種類は、次の通りである:

もし製品が熱い場合、耐熱・耐化学薬品性の保護手袋を着用すること。また、前腕への接触がありそのような場合には、長手袋を着用すること。ニトリル

眼、顔面の保護具: 本物質に接触する可能性がある場合、安全メガネと顔面保護シールドが推奨される。

皮膚及び身体の保護具: 提供された個々の保護衣に関する情報は、公表された文献および製造業者のデータに基づいている。本物質用に考えられる保護衣のタイプは以下の通りである:

もし製品が熱い場合、耐熱、耐化学薬品性のエプロンおよび長袖の衣服を着用すること。

衛生措置: 本物質を取り扱った後、手を洗ってから飲食や喫煙をするなど、常に個人で適切な衛生的措置を続ける。汚染物質を取り除くために定期的に作業着と保護具を洗濯する。洗濯できない汚染された衣類及び靴などは廃棄する。確実な備品管理を実施する。

環境規制

大気、水、土壌への汚染を抑制するため、適用される環境に関する法規制に従うこと。また、環境への放出を防止又は抑制するため、適用される適切な管理方法を執り、環境を保全すること。

セクション 9

物理的及び化学的性質

注: 物理的及び化学的性質は、安全、健康、環境に関する情報のためのみに提供するものであり、製品の全ての性状を示したものではない。その他の情報については、供給者に相談すること。

基本的な物理的及び化学的性質

物理状態: 固体

化学品の名称: PROWAX 390

改訂日: 15 Feb 2022

ページ 6 / 12

色: 褐色

臭い: わずかな石油臭

融点: 80°C (176° F)

凝固点: データなし

沸点又は初留点 / 沸点範囲: > 316°C (600° F) [予測値]

可燃性: 点火可能な

爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界: 下限界: データなし 上限界: データなし

引火点 [試験法]: >232°C (450° F) [ASTM D-92]

自然発火点: データなし

分解温度: データなし

pH: 適用外

動粘性率: [@40°C 非適用] | 18.3 cSt (18.3 mm²/sec) @ 100°C

溶解度: 無視できる

n-オクタノール/水分配係数 (log値): > 6 [予測値]

蒸気圧: < 0.013 kPa (0.1 mm Hg) @ 20°C [予測値]

密度 (@ 15 °C): 0.86

相対ガス密度: データなし

粒子特性: サイズ中央値: データなし サイズ範囲: データなし

その他の情報

蒸発速度 (酢酸n-ブチル = 1): データなし

酸化特性: 危険有害性の要約の項を参照.

セクション 10

安定性及び反応性

反応性: 以下のサブセクションを参照してください。

化学的安定性: 通常状態で安定。

避けるべき条件: 過剰加熱。

混触危険物質: 強酸化剤

危険有害な分解生成物: この物質は、常温では分解しない。

危険有害反応可能性: 危険有害性のある重合はおきない。

セクション 11

有害性情報

毒物学的影響に関する情報

化学品の名称: PROWAX 390

改訂日: 15 Feb 2022

ページ 7 / 12

危険物クラス	結論／備考
吸入	
急性毒性: 評価項目データなし	情報なし
刺激性: 評価項目データなし	温度が上昇するか機械的な作用により、蒸気、ミスト、または煙霧を生成する可能性がある。これらは眼、鼻、のど、および肺に刺激を与える可能性がある。
摂取	
急性毒性 (ラット): LD50 > 5000 mg/kg	毒性が極めて低い。類似構造物質の試験データに基づく OECD ガイドラインに相当または類似した試験 401 420
皮膚	
急性毒性 (ウサギ): LD50 > 2000 mg/kg	毒性が極めて低い。類似構造物質の試験データに基づく OECD ガイドラインに相当または類似した試験 402
皮膚腐食性/刺激性 (ウサギ): データ有り	常温では、皮膚の炎症は殆ど起きない。類似構造物質の試験データに基づく OECD ガイドラインに相当または類似した試験 404
眼	
眼に対する重篤な損傷性/刺激性 (ウサギ): データ有り	眼に、短い時間軽度な不快感を及ぼす恐れがある。類似構造物質の試験データに基づく OECD ガイドラインに相当または類似した試験 405
感受性	
呼吸器感受性: データ無し	呼吸器感受性物質は予測されない。
皮膚感受性: データ有り。	皮膚感受性物質は予測されない。類似構造物質の試験データに基づく OECD ガイドラインに相当または類似した試験 406
誤えん: データ有り。	誤えん有害性は予測されない。材料の物理化学的特性に基づく。
生殖細胞変異原性: データ有り。	生殖細胞変異原性物質は予測されない。類似構造物質の試験データに基づく OECD ガイドラインに相当または類似した試験 471 473 474 476
発がん性: データ有り。	発がん性は予測されない。類似構造物質の試験データに基づく OECD ガイドラインに相当または類似した試験 453
生殖毒性: データ有り。	生殖毒性物質は予測されない。類似構造物質の試験データに基づく OECD ガイドラインに相当または類似した試験 414 421 422
授乳: データ無し	乳幼児に害を与えることは予測されない。
特定標的臓器毒性	
単回ばく露: データ無し	単回ばく露から臓器損傷を引き起こすことは予測されない。
反復ばく露: データ有り。	長期または反復ばく露から臓器損傷を引き起こすことは予測されない。類似構造物質の試験データに基づく OECD ガイドラインに相当または類似した試験 408 410 411 453

その他の情報

製品: 石油系ワックス: 動物の生存期間での皮膚塗布試験および経口食餌試験において、発癌性はない。また、生体外試験では、変異を起こさない。_x000D_精神的緊張下でのラット (F-344) への高用量投与において、肝臓、脾臓およびリンパ節に微視的な炎症 (微小少肉芽腫) 病変を起こし、臓器重量の僅かな増加、心臓僧帽弁の炎症、さらにある組織での鉍物系炭化水素の蓄積が起きることが確認された。尚、実験動物及び人に対しては、非感受性である。

参照データの出典の記述はセクション16を参照。

化学品の名称: PROWAX 390

改訂日: 15 Feb 2022

ページ 8 / 12

IARC(国際がん研究機関) 分類:

以下の成分は、下記リストで示す: なし。

---探索した規制リスト---

1 = IARC 1 (ヒトに対して発ガン性がある)

2 = IARC 2A (ヒトに対して恐らく発ガン性がある)

3 = IARC 2B (ヒトに対して発ガン性がある可能性がある)

セクション 12

環境影響情報

ここに示す情報は、この物質、成分および類似物質のデータに基づいている。

生態毒性

物質 --- 水生生物に対する有害性は予測されない。

土壌中の移動性

炭化水素組成物 --- 本物質は、溶解度が低く、浮遊し、水中から陸地に移動することが予測される。
汚泥ならびに汚水固形物として分離し得る。

残留性・分解性

生物分解:

炭化水素組成物 --- 本質的に生分解性と予測される。

生体蓄積性

炭化水素組成物 --- 生態蓄積の可能性を有するが、代謝あるいは物理的特性により、生体内濃度を低下させたり、生体利用効率を制限させたりすることもある。

オゾン層への有害性

非該当

参照データの出典の記述はセクション16を参照。

セクション 13

廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報

廃棄方法

供給された物質を適切に廃棄する。廃棄に際しては、その時点での廃棄物の状態に応じて、適用される法律、規制に従わなければならない。

残余廃棄物

化学品の名称： PROWAX 390

改訂日： 15 Feb 2022

ページ 9 / 12

適切な廃棄方法として、廃棄時の物質の状態に応じて該当法令を遵守し、管理された焼却炉(熱回収設備があれば優先する)で焼却するか、適切なりサイクルをすることを勧告する。

空容器に関する警告 空容器に関する警告 (該当する場合): 空容器には残留物が含まれていることがあり、危険である可能性がある。正しい指示を得ないで、容器の再充填またはクリーニングをしてはいけない。空のドラム缶は適切に修理するか廃棄するまで、内容物を完全に取出し安全に保管するべきである。空容器は、適切な資格を持つかまたはライセンスを受けた契約業者により、政府の規則に従いリサイクル、回収、または廃棄するべきである。容器に加圧、切断、溶接、ろう付け、はんだ付け、穴開け、研磨操作を加えたり、容器を熱、火炎、スパーク、静電気、または他の発火源にさらしてはいけない。容器は爆発し、傷害や死亡事故を引き起こすことがある。

セクション 14

輸送上の注意

陸上輸送手段及び輸送条件の注意事項:

その他関係法令の定めるところに従う。

海上輸送 (IMDG): IMDGコードによると、海上輸送では規制対象外

海洋汚染物質: なし

海上輸送 (MARPOL条約 - 付属書 II)

化学品の名称: 炭化水素系ワックス

船型: 2

汚染区分: X

航空輸送 (IATA): 空輸に関する規定無し

セクション 15

適用法令

この物質は、化学品の分類及び表示に関する調和システム(GHS) (JIS Z 7252-2019)に基づく区分によれば有害性があるとは見なされない。

該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

下記の既存化学物質リストに収載されているか、収載・通知が免除されている。 : AIIC, DSL, ENCS, IECSC, ISHL, KECI, PICCS, TCSI, TSCA

適用法令:

化審法: 既存化学物質

消防法: 危険物非該当 / 可燃性固体類

労働安全衛生法 : 通知対象物質

労働安全衛生法 : 表示対象物質

化学品の名称： PROWAX 390

改訂日： 15 Feb 2022

ページ 10 /12

船員労働安全衛生規則： 該当
毒物及び劇物取締法（PDSCL）： 非該当
化学物質管理促進法（PRTR法）： 非該当
廃棄物処理法： 産業廃棄物

日本の成分情報

労働安全衛生法 57条、表示対象物質：

化学名又は一般名	濃度
固形パラフィン（スラックワックス（粗蠟），融点：60℃）	90-100 重量%

労働安全衛生法 57条の2、通知対象物質：

化学名又は一般名	労働安全衛生法 政令番号	濃度
固形パラフィン（スラックワックス（粗蠟），融点：60℃）	170	90-100 重量%

労働安全衛生法施行令、別表3-1、製造許可物質： なし。

PRTR法第1種指定化学物質： なし。

PRTR法第2種指定化学物質： なし。

毒物及び劇物取締法の対象化学物質： なし。

セクション 16

その他の情報

参考文献： このSDSの作成にあたり、以下の文献の一つ又は二つ以上を引用している；社内または供給業者のトキシコロジー研究結果、CONCAWEプロダクトドシェ、欧州炭化水素溶剤REACHコンソーシアムのような通商協会の刊行物、米国HPVロバストサマリー、欧州IUCLIDデータベース 米国NTP刊行物、必要に応じたその他の文献。

N/D =情報なし， N/A =非該当

本安全データシートの改訂状況は以下のとおり：

セクション 01： 緊急連絡先 情報が修正された。
セクション 04： 応急処置の目 情報が追加された。
セクション 08： 暴露限界/基準 情報が修正された。
セクション 09： 分解温度℃（F） 情報が追加された。
セクション 09： 分解温度℃（F） 情報が削除された。
セクション 9： 可燃性（固体、ガス） 情報が削除された。
セクション 9： 可燃性 情報が追加された。
セクション 09： 燃焼範囲-下限 情報が追加された。
セクション 09： 燃焼範囲-上限 情報が追加された。

化学品の名称: PROWAX 390

改訂日: 15 Feb 2022

ページ 11 / 12

セクション 09 : 粒子特性 情報が追加された。
セクション 09 : 粒子範囲 情報が追加された。
セクション 09 : 物理的状态 情報が削除された。
セクション 10 : 反応性 情報が追加された。
セクション 11 : 誤えんの結論 情報が追加された。
セクション 11 : 誤えん 試験データ 情報が追加された。
セクション 11 : 発がん性物質の結論 情報が追加された。
セクション 11 : 発がん性物質 試験に関するコメント 情報が追加された。
セクション 11 : 発がん性物質 試験データ 情報が追加された。
セクション 11 : 発がん性物質 試験ガイドライン 情報が追加された。
セクション 11 : 皮膚刺激性に関する試験データ 情報が追加された。
セクション 11 : 皮膚刺激性に関する試験データ 情報が削除された。
セクション 11 : 経皮致死量試験データ 情報が追加された。
セクション 11 : 経皮致死量試験データ 情報が削除された。
セクション 11 : 経皮致死量 試験ガイドライン 情報が追加された。
セクション 11 : 目刺激性に関する試験データ 情報が追加された。
セクション 11 : 目刺激性に関する試験データ 情報が削除された。
セクション 11 : 眼刺激性試験ガイドライン 情報が追加された。
セクション 11 : 呼吸器刺激性に関する試験データ 情報が修正された。
セクション 11 : 吸入致死試験に関するコメント 情報が削除された。
セクション 11 : 吸入致死に関する試験データ 情報が追加された。
セクション 11 : 吸入致死に関する試験データ 情報が削除された。
セクション 11 : 授乳の結論 情報が追加された。
セクション 11 : 授乳 試験データ 情報が追加された。
セクション 11 : 変異原性の結論 情報が追加された。
セクション 11 : 変異原性 試験に関するコメント 情報が追加された。
セクション 11 : 変異原性物質 試験データ 情報が追加された。
セクション 11 : 変異原性物質 試験ガイドライン 情報が追加された。
セクション 11 : 経口致死性試験データ 情報が追加された。
セクション 11 : 経口致死性試験データ 情報が削除された。
セクション 11 : 経口致死量試験ガイドライン 情報が追加された。
セクション 11 : 生殖の結論 情報が追加された。
セクション 11 : 生殖 試験に関するコメント 情報が追加された。
セクション 11 : 生殖 試験データ 情報が追加された。
セクション 11 : 生殖 試験ガイドライン 情報が追加された。
セクション 11 : 呼吸器感作性の結論 情報が追加された。
セクション 11 : 呼吸器感作性試験データ 情報が追加された。
セクション 11 : 皮膚刺激性 試験ガイドライン 情報が追加された。
セクション 11 : 皮膚感作性の結論 情報が追加された。
セクション 11 : 皮膚感作性 に関するコメント 情報が追加された。
セクション 11 : 皮膚感作性試験データ 情報が追加された。
セクション 11 : 皮膚感作性 試験ガイドライン 情報が追加された。
セクション 11 : 特定標的臓器毒性-反復ばく露の結論 情報が追加された。
セクション 11 : 特定標的臓器毒性-反復ばく露 試験に関するコメント 情報が追加された。
セクション 11 : 特定標的臓器毒性-反復 試験データ 情報が追加された。
セクション 11 : 特定標的臓器毒性-反復 試験ガイドライン 情報が追加された。

化学品の名称: PROWAX 390

改訂日: 15 Feb 2022

ページ 12 / 12

セクション 11 : 特定標的臓器毒性-単回ばく露の結論 情報が追加された.

セクション 11 : 特定標的臓器毒性-単回 試験データ 情報が追加された.

セクション 14 : MARPOL条約 付属書 II 製品名 - 見出し 情報が修正された.

セクション 15 : 国内の有害性記述 情報が修正された.

この文書に含まれる情報および推奨事項は、エクソンモービルが有する情報および知見の範囲の限りで、発行時に
いて正確且つ信頼できるものです。この文章が最新版であることを確認する場合はエクソンモービルにご連絡くだ
さい。この文書の情報および推奨事項は、使用者による検討、調査のために提供されています。本製品の特定の使用目
的への合致の有無については使用者においてご確認ください。本製品の購入者が荷姿を変更する場合、健康、安全、
その他必要な情報を含む書類を同封しまたは容器に添付するのは購入者の責任です。適切な警告標示、安全な取扱い
手順を、取扱者と使用者に提供して下さい。この文書を全体的または部分的に変更することは強く禁じられていま
す。法的に必要な場合を除いて、再発行、再頒布することは、許可されていません。『エクソンモービル』は便宜上
使用される言葉であり、エクソンモービルケミカルカンパニー、エクソンモービルコーポレーション、もしくはそれ
らが直接または間接に影響力を持つ被支配会社を含むことがあります。

弊社使用欄

MHC: 0B, 0B, 0, 0, 0, 1

PPEC: A

DGN: 2012093XJP (1013838)